

世界が進むチカラになる

MUFG ⑤

挑戦する企業



「次の10年でアジアでの金融デジタルプラットフォーム（基盤者）になるための第1弾だ」。三菱UFJ銀行グループバルコマーシャルバンクینگ企画部長の中園昌茂は、2022年末以降、アジアのデジタル金融会社に相次ぎ出資した狙いをこう説明する。三菱UFJ銀は平野信行頭取時代の12年ごろに

アジアデジタル金融に出資

アジアへの投資戦略を本格化した。13年にベトナムのワイエティンバンクとタイのアユタヤ銀、16年にフィリピンのセキユリテイーバンク、17年からインドネシアのダナ

んだのが、三菱UFJ銀の過去10年間のアジア戦略と言える。だが、東南アジアでもこの数年でサービスのデジタル化が急速に加速した。銀行口座を持たな

を増やせば採算がとれる。今まで銀行が敬遠してきた分野で新興のフィンテック（金融とITの融合）企業のデジタルサービスが急速に広がった。

アンバンクド層取り込む

モン銀と、東南アジアの主要各国の商業銀行に出資した。

商業銀行は基本的にその国の経済成長と比例する形で成長する。東南アジアの経済成長を地場の商業銀行を通じて取り込

ったアンバンクド層がスマートフォン経由でデジタル型後払いサービスを家電などの購入時に利用できるようになった。サア、フィリピン子会社を870億円で購入。インドネシアを中心に事業展開するアクラク、インド

だからこそ、三菱UFJ銀は22年末にオランダの消費者金融会社ホームクレジットのインドネシア、フィリピン子会社を870億円で購入。インドネシアを中心に事業展開するアクラク、インド

三菱UFJ銀行が出資したデジタル金融会社		
社名	出資額	特徴
ホームクレジット・インドネシアの子会社	約870億円	家電販売店の支払い時にスマホ経由でPOSに出す
アクラク	約260億円	インドネシア中心に顧客の購買行動に合わせたデジタル型後払いサービスを展開
DMIファイナンス	約317億円	インドネシアで商品購入時にスマホ経由でPOSに出す

のDMIファイナンスなど、アンバンクド層向けのデジタル金融会社に相次ぎ出資した。

なかると、次の10年でアジアが進むチカラになる。ための存在意義を示す。（敬称略）

中園は今後の戦略について「継続的に次々と良い出資案件を探す。当社が持つポートフォリオ（事業構成）と組み合わせながら相乗効果を最大化していく」と語る。

出資した現地のデジタル金融会社を通じてアンバンクド層とつ